

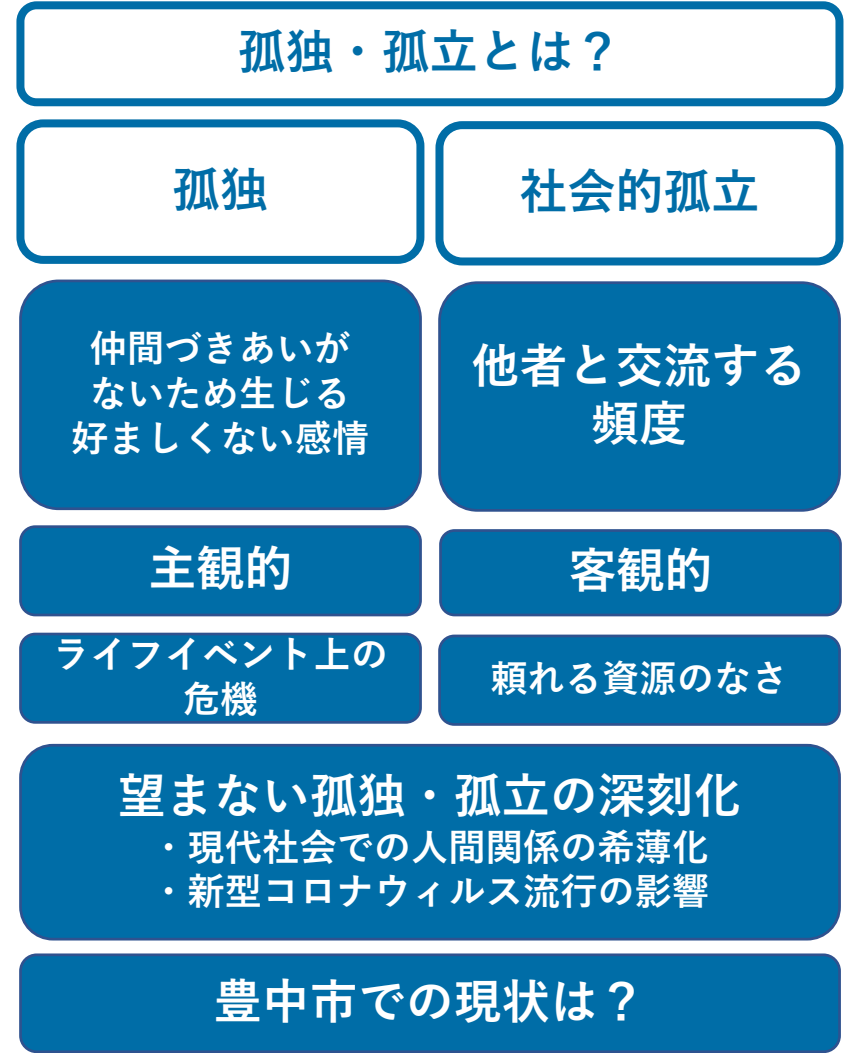
【要約】豊中市における孤独・孤立に関する調査研究

研究員 平田 誠一郎

■ 研究概要

- 新型コロナウイルスの流行にともない、孤独・孤立の深刻化が懸念されている。市民アンケート※を通じて豊中市における孤独・孤立の実態について調査した。
- 健康にネガティブな影響を与える「望まない孤独・孤立」に特に留意して調査研究を行った。
- 国の内閣官房孤独・孤立対策室によるアンケートに準拠した調査票を用い、国の調査結果との比較を可能とした。
- 豊中市独自の調査項目として、孤独の解消や希望する相談形態等も尋ね、支援を必要とする人々へのアプローチも検討した。

※市民のつながりに関するアンケート調査
 令和4年（2022年）7月5日～7月29日実施 市民6,000人を対象
 有効送付数：5,963件 有効回答者数：2,435人 有効回答率40.3%



豊中市における人々の孤独感の現状

年齢・男女別孤独感

男女ともに50歳代の孤独感が強い（右図）。国の、30歳代が最も孤独感が強いという傾向と異なる。

現在の仕事別孤独感

求職中の人の孤独感が強い。数が少ないが、派遣社員の孤独感も強い。

世帯収入別孤独感

世帯収入が少ない層で孤独感が強い。
またその中で強い孤独を感じる人の割合が国に比べて多い。

コミュニケーション頻度別孤独感

非同居の家族や友人と会って話す回数が少ないほど孤独感が強い。

孤独感に至る出来事

孤独感に至る出来事で最も多いのは「一人暮らし」。
国の結果と比べても、「一人暮らし」を選ぶ人の割合が高い。

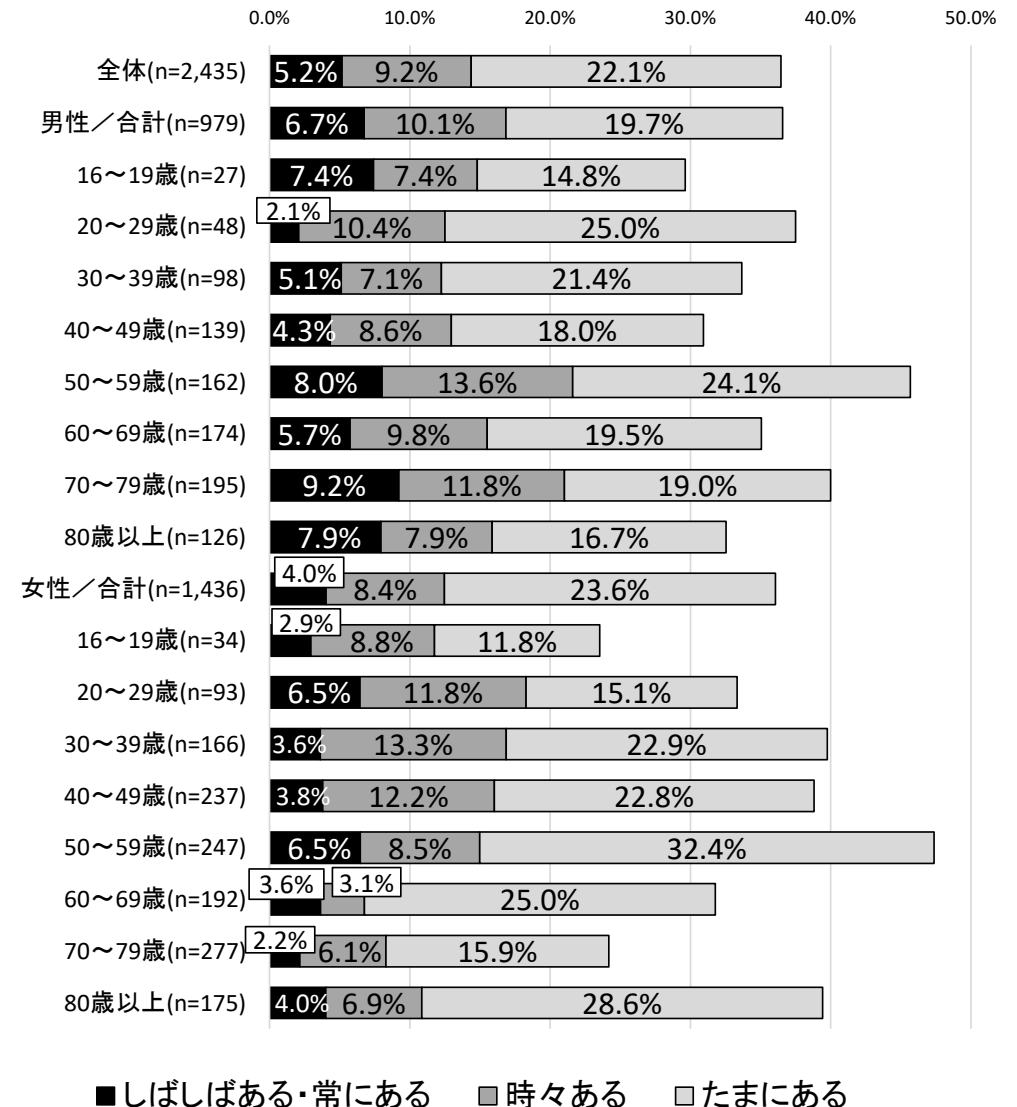
心身の健康状態別孤独感・現在の暮らし向き別孤独感

心身の健康状態が悪いほど、暮らし向きが苦しいほど孤独感も強い。

※孤独感に関する直接質問・間接質問について

今回の調査研究でのアンケートでは、孤独を感じる頻度を尋ねる「直接質問」と、孤独という言葉を使わず3つの状況に関する質問への回答から孤独感を測定する「間接質問」の2種類を用いています。

設問「あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか」（直接質問）への回答 ※孤独感があるという回答のみ



豊中市における社会的孤立の現状

コミュニケーション頻度

同居していない家族・友人とのコミュニケーションでは男性では30歳代、女性では50歳代で頻度が少ない（右図）。

国と比較して30歳代男性と70歳代男性、20歳代女性の頻度が少ない。

外出頻度・外出目的

外出頻度は「週5日以上」が最多（61.8%）。

外出目的は「食事・買い物・日常の用事」、「仕事・学校」、「趣味や娯楽・散歩や運動」の順に多い。国と比較して「趣味や娯楽・散歩や運動」が多い。

社会参加

社会参加は女性の方が多い。国との比較では男性の社会参加がより少なく、女性がより多い。内容は「スポーツ・趣味・娯楽」が多く、「PTA・自治会・町内会等」が続く。

行政機関等からの支援

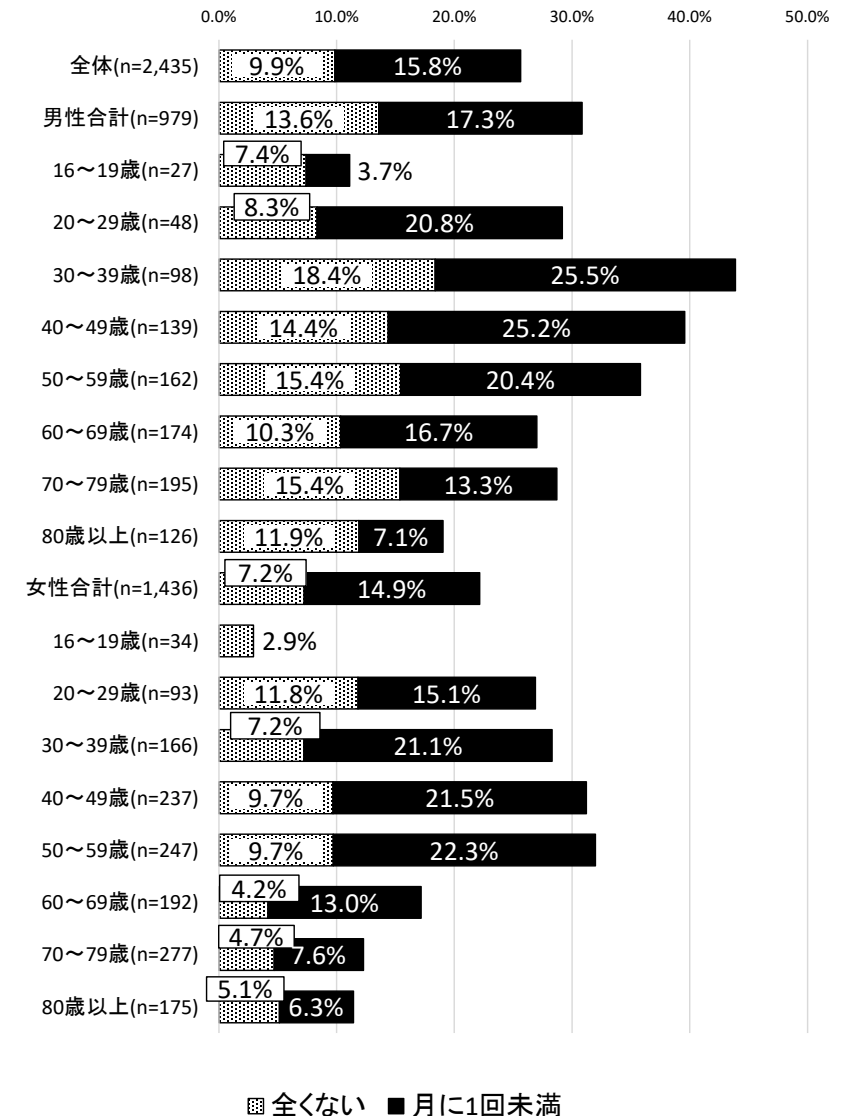
支援の受領は男性70歳代・80歳代、女性80歳代が多い。

国と比較して男性70歳代の受領割合が多い。

他者への手助け

他者への手助けをしている人は、全体で43.0%である。全体的に国と比較して若干少なく、特に男性の40歳代と70歳代で少ないが、女性の60歳代では国より多い。

非同居の家族・友人と会って話す頻度
※頻度の少ない回答のみ



「誰を」「どのように」支援できるか（支援へのアプローチ）

支援について

支援を受けている人の支援主体：行政機関＝52.6% 社会福祉協議会＝36.5%
 支援内容：経済的支援＝44.5% 人的支援＝27.7% 相談支援＝23.4%
 支援を受けない理由：孤独感が高くなるほど「我慢できる」「受け方が分からない」の回答が増える。

相談について

孤独感が高いほど「相談しても無駄」「相手の負担になる」と答える人が多い（ただし、国と比較するとその割合は相対的に少ない）。
 希望する相談形態：「窓口で対面」「電話」が多い。若年層はネットも。

孤独の解消・人とのつながりを感じる場所

孤独を「他者とつながり解消したい」が約半数。心身の健康状態がよくない人は「わからない」も多い（右上図）。暮らし向きの苦しさも同様。「人とのつながりを感じる場所」では自宅が多いが、高齢になると趣味活動や地域活動のサークルを選ぶ人が増える。

孤独・孤立の影響

孤立／非孤立のいずれもかかわらず、孤独感がある人に心身の健康状態のよくない人が多い（右下図）。暮らし向きの苦しさも同じ傾向。

ゆるやかなつながりの形成

豊中市の特徴＝都市的なライフスタイル：国と比較して孤独感の高い50歳代回答者の「単身世帯」「子との非同居」の多さなど。
 →孤独感の緩和を図り、必要であれば支援につなげる。
 →他者と共にいることを感じられるイベントなど、人との関わりの入口を。

